

テーマ「私の一票」

小倉東高等学校 小澤 七瀬

今年の七月に行われた参議院選挙。選挙権が18歳に引き下げられて初めての国政選挙だった。その時のキャッチフレーズが、「選挙は私たちが主役ですから。」「日本の将来を決めに行こう。」だった。

私たち高校生にとって選挙とは、大人がするもの、テレビで報道されるものなどと、他人事のようにしか考えていなかった。ここ数年、若者の政治離れや投票率の減少など、今の政治に興味がないことが分かる。そんな中での選挙法の改正、私はすごく興味を持った。

私は、以前から政治に興味を持っていた。最近、憲法改正や集団安全保障など、私たちの将来に関わっている事が多かった。昔はあまり関心がなかったのだが、私達に関わる事は知っておかなくてはならないと考えて、ニュースや新聞を見るとようになった。参議院選挙が行われると聞き、私はまず、立候補者達がどのようなマニフェストを決めているのかを見た。地元福岡の立候補者の多くは、地域活性を目的とするマニフェストを挙げていた。地元を活性化させるというのは市民にとってもありがたい。だが、具体的な事が書いていないと、どの人に投票しようか迷う。私達の一票で日本の将来が決まるかもしれないと思うと、ちゃんと考えて投票しなければいけないと思った。私達の今後にとってプラスとなるものを選ばなければならないと思ったが、さまざまな人の意見などを聞き、アメリカなどの各国との関係や集団安全保障のことを考えると、今後、日本にも悪い影響が及ぶ可能性がある。自国の利益も大切だが、国際的な協力も必要となってくるので、私は憲法改正や安全保障を公約にしている候補者を選ぼうと思った。

他人事だと考えていた政治に、自分たちのような若い世代が参加できることは、とてもよい事だと思う。政治と身近に接するように今日、若年層の政治への関心度の低さなど多くの課題があるが、私は、学校が国政や選挙についての勉強会や講話など積極的に行ったら少しでも関心を持ってくれるのではないかと思う。選挙では投票するまでに、政治の知識が十分に備わっていたら、自分の一票が私たちの未来に反映され、日本がより住みやすく、国際社会で大いに活躍してくれる一票になるかもしれない。選挙や政治を学び、日本の役に立つ一票を入れたいと思った。